

今回は、地理の話ではありません。

足柄高校から歩いて 10 分ほどのところに南足柄市立福沢小学校があります。卒業生の人もいるのではないのでしょうか。今から 70 年ほど前の 1950 年頃、福沢小学校は日本全国の教育関係者にその名を広く知られていました。どうしてなのでしょう？

第 2 次世界大戦後、日本の教育制度やその内容は、当時日本を占領していたアメリカを中心とする連合軍の影響^{えいきょう}下で大きく変わりました。福沢小学校の名前が全国に知られたのは、そんな時代のことでした。当時文部省で働いていた人に石山修平さんがいます。石山さんは、同年代の多くが戦前の軍国主義教育を推進したことから文部省を追われて若手が多かつた中で、課長として学習指導要領づくりの仕事をしていました。その石山氏が推進していたのが、1930 年代にアメリカで盛んになった、生徒の経験や活動を中心とした教科融合的^{ゆうごうてき}（総合学習的）な教育課程^{きょうりくかてい}をつくる「コアカリキュラム運動」です。

石山修平さんは教科の学習について、「今学習していることが何科に属する問題であるかは、生徒にとって意味のあることではない」、実際生活のための教育を秩序立てて教育する便宜上^{べんぎじょう}から教科を分けているにすぎないのだと言っています。今の日本の小・中・高等学校の教育は、教科の学習に重きが置かれていますが、この教科の内容が私たちの实际生活にどう関係しているのかわからない、そんな疑問を感じることはありませんか？石山さんを中心としたコアカリキュラム運動を推進した人たちは、当時もあつたそんな疑問に答えるような形で、次々と新しいカリキュラムを発表しました。

福沢小学校にもきっと熱心な先生がいたのでしょう。石山さんは何度も東京から福沢小を訪れて先生方に助言しています。そして社会科を中心とした「指導要素表」（福沢プラン）というものが発表されました。この時代に発表されたコアカリキュラムの多くが、教育系大学の附属小学校のものが多くの中で、福沢小の名前はとても目立ちます。

しかし、その後残念ながらコアカリキュラム運動など児童生徒の経験を重視する考え方は、「活動ばかりで学びなし」とか「はいまわる経験主義」などと批判されて勢力が小さくなりました。私も教科学習には学習することで系統的な知識や技能が身に付き、しかも論理的に考えたり、感性を刺激したり、体の諸器官の機能を強化するなどの効果があつて大切だと思ひます。

しかし、一方でそれぞれの時代や地域の課題を生徒の学習にうまく取り込んで、能力を伸ばしていくことも必要だと思ひます。20 年ほど前に新しく始まつた「総合的な学習の時間」は、コアカリキュラム運動など生徒の活動や経験を大切にする教育の伝統の中から生まれました。

本校ではこの総合的な学習^{たんごうがく}（探究）の時間の一環として、朝読書を行っています。皆さんの日頃の興味関心を糸口にして、次第に人間の精神や社会・世界の課題の探究に進んでいく時間になってほしいと思ひています。私は足柄高校に赴任して早々、登校したみなさんが静かに読書をして一日を始めている姿を見て、とても感動しました。そんなみなさんに私からできるささやかなプレゼントを明日お渡しします。

楽しみにしててください。